

(諮問第1号について事務局より説明)

(質疑等の要旨)

- 委員：子育て世代の母親がまちに出るきっかけを作りたいと活動をしてきたが、公園をどう使うかわからない、どう借りていいのかわからないという意見が多く、このような情報が伝わっていない。パブリックハック宣言など、尼崎は挑戦しやすいまちという特徴がある。例えばコミュニティ公園であることを示すことや、公園の借り方をわかりやすくするなど、気軽に子育て世代が使えるものとしてほしい。
- 事務局：パブリックハック宣言として、阪急塚口駅の南側を使いやすい駅前広場の取組を行っている。バスを待つだけの駅前ではなく、読書など様々な形で利用できるようにしている。公共空間の利活用は重要であるので、見せ方も含めて検討を進める。
- 委員：防災のためだけのハード整備はコスト面で進みにくいこともあるが、「防災も」という横断的な視点を持つだけでまちの防災機能が高まる。防災、防犯、安全性という横断的な視点を取り入れてほしい。
- 委員：立適については、私は国と一緒に制度の検討をしたが、立適でいうコンパクトなまちとは、物理的にコンパクト（集約）にするという意味ではなく、そこで人々が濃密なライフスタイルを送ることができるまちを目指すという趣旨である。公共交通はここ5年ほどでインフラと位置付けられ、立適のコンパクト・プラス・ネットワークの柱となっているが、都市マスでは、鉄道駅は扱ってもバスは扱わないなどバランスに欠けるところがあり、立適のインフラが意味するところは都市マスより幅広いものである。公共交通や公共空間をどう使うか、それらを濃密なアクティビティやライフスタイルにどう繋げるかが立適においては重要である。
- 委員：ミックスユースがこれからのまちづくりでは重要だが、ミックスユースと言うと交通渋滞や密集問題など交通や防災の観点からはネガティブな側面もあるので、住農、住工、住商といった混在に対して、どのような対処をするのかを、住環境、緑、交通、防災の観点からエリア別の開発方針等を示す必要がある。そうした取組がブランディングにつながる。

以上